

授 業 科 目 名	幼児と人間関係	教 員 名	山下 愛実	免許・資格 との関係	小学校教諭	
					幼稚園教諭	必修
授 業 形 態	講義	担当形態	単独	卒業要件	保育士	
科 目 番 号	FOI105	配当年次	1年前期		こども音楽療育士	
単 位 数	1単位			小幼コース		幼保コース
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目（幼稚園）					
施 行 規 則 に 定 める 科 目 区 分 又 は 事 項 等	保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）					
一 般 目 標	(1) 子どもを取り巻く人間関係に関する現状と課題を理解する。 (2) 領域「人間関係」のねらい及び内容を理解し、乳幼児期における人間関係の発達を理解する。					
到 達 目 標	(1) 子どもを取り巻く人間関係に関する現状と課題 ① 乳幼児を取り巻く社会環境の変化について、家族や地域との関わり等の人間関係の観点から説明できる。 ② 乳幼児期における人と関わる力の育ちの重要性について理解している。 (2) 領域「人間関係」のねらい及び内容と人間関係の発達の理解 ① 領域「人間関係」のねらい及び内容を理解している。 ② 乳幼児期における人間関係の発達過程を学び、子どもの育ちを豊かにする保育者の援助のあり方を考察することができる。 ③ 幼児教育・保育現場の遊びや生活にみる個の育ちと集団の育ちの関係性を理解している。具体的には、自立心、協働性、道徳性、規範意識の芽生え等の点から子どもの育ちを読み取ることができる。					
授 業 の 概 要	人間関係は、「生きる力」の原点として位置づく。子どもを取り巻く社会環境の変化について、人間関係の観点から検討し、乳幼児期に人と関わる力を育むことの意義を考える。また、領域「人間関係」について、ねらい及び内容を理解するとともに、乳幼児期の人間関係の発達の特徴を踏まえた上で、多様な人びととの関係のなかで育つ子どもの育ちを捉え、子どもの育ちを豊かにする保育者の援助のあり方を考察する。具体的には、テキストや視聴覚教材等による保育事例や演習を通して、実践的に学びを深める。 アクティブラーニングとして、振り返り、グループディスカッション、グループレポート、個人レポートなどを取り入れる。					
ディプロマ・ポリシーとの関係	本講義は、教育学部のディプロマ・ポリシーに掲げる「6.教科・教職に関する基礎的・応用的知識を身につけている。」を育成する科目として配置している。					
授 業 計 画	第1回：講義概要の説明（本講義の主旨および講義計画について） 幼児教育・保育の特徴を理解し、幼稚園教育要領における5領域について学ぶ。（目標(2)-①） 第2回：人間関係の育ちをめぐる現代的課題 乳幼児を取り巻く社会環境の変化について、家族や地域との関わり等の人間関係の観点から考える。（目標(1)-①, ②） 第3回：教育・保育要領にみる「人間関係」の「ねらい」や「内容」について 「ねらい」（①幼稚園・保育所生活を楽しみ、自分の力で行動することの充実感を味わう。②身近な人と親しみ、関わりを深め、工夫したり、協力したりして一緒に活動する楽しさを味わい、愛情や信頼感をもつ。③社会生活における望ましい習慣や態度を身に付ける）と「内容」および「内容の取り扱い」について理解する。（目標(1)-②, (2)-①） 第4回：乳幼児期における人間関係の発達① 乳児期の情動にもとづくコミュニケーションについての理解を深める。（目標(2)-②） 第5回：乳幼児期における人間関係の発達② 保育における個の育ちと集団の育ちの関係性について、実践の画像や映像などを分析し、考察					

	<p>を行う。(目標(2)-③)</p> <p>第6回：人間関係を育む遊びと環境①（子どもと保育者との関わり、子ども同士の関わり）  子ども一人一人を理解すること、集団で活動する楽しさを経験できる環境の工夫について学ぶ（自立心、協働性、道徳性、規範意識の芽生え）。(目標(2)-②, ③)</p> <p>第7回：人間関係を育む遊びと環境②（子ども同士の関係性を支える保育者の関わり）  子ども同士の関係をつなぐ援助・配慮のあり方について、実践の画像や映像などを分析し、人と関わる力を育むための保育者の役割を考察する（仲間入り、イメージの共有、協働的活動）。また、人との関わりが難しい子どもへの支援について考える。(目標(2)-②, ③)</p> <p>第8回：これまでの授業内容の振り返り・まとめ  期末試験</p>
学生に対する 評価	<p>講義と討論への積極参加（提出物・グループワーク等）20%・発表20%・期末試験60%</p> <p>なお、レポート・答案等の提出物へのフィードバックについては、以下の方法等による。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コメントを記載して返却する。</li> <li>・授業またはオフィスアワーに、口頭で行う。</li> <li>・答案例を配布する。</li> </ul>
時間外の学習 について	<p>（事前・事後学習として週4時間以上行うこと。）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習した内容についてプリントで再確認しておく。また、これまで配布したプリントを再読し、理解を深め、不明点は質問する。</li> <li>・講義を受けて、レポート課題があるときには必ず次回の授業で提出すること。</li> <li>・講義で使った資料やノートのパイル管理を徹底すること。</li> <li>・講義で使用したテキスト箇所を必ず復習しておくこと。</li> </ul>
テキスト	<p>汐見稔幸・大豆生田啓友監修（2022）『アクティベート保育学08 保育内容 人間関係』ミネルヴァ書房</p>
参考書・ 参考資料等	<p>厚生労働省（2018）『保育所保育指針解説』フレーベル館</p> <p>文部科学省（2018）『幼稚園教育要領解説』フレーベル館</p> <p>内閣府・文部科学省・厚生労働省（2018）『幼保連携型認定こども園 教育・保育要領解説』フレーベル館</p> <p>なお適宜資料を配付する。</p>
担当者からの メッセージ	<p>積極的に授業に参加する中で、子どもの育ちの豊かさや子どもの育ちを支える保育の面白さに触れ、子どもへの関心や保育の理解が深まることを期待します。</p>
オフィスアワー	<p>授業の前後の時間（メール等でアポイントを取る）</p>